

プリントネット株式会社

2019年10月期第3四半期 決算説明資料

証券コード : 7805

2019年9月13日

Printing Solution!!
High Quality, Fastest Delivery, Hospitality

目次

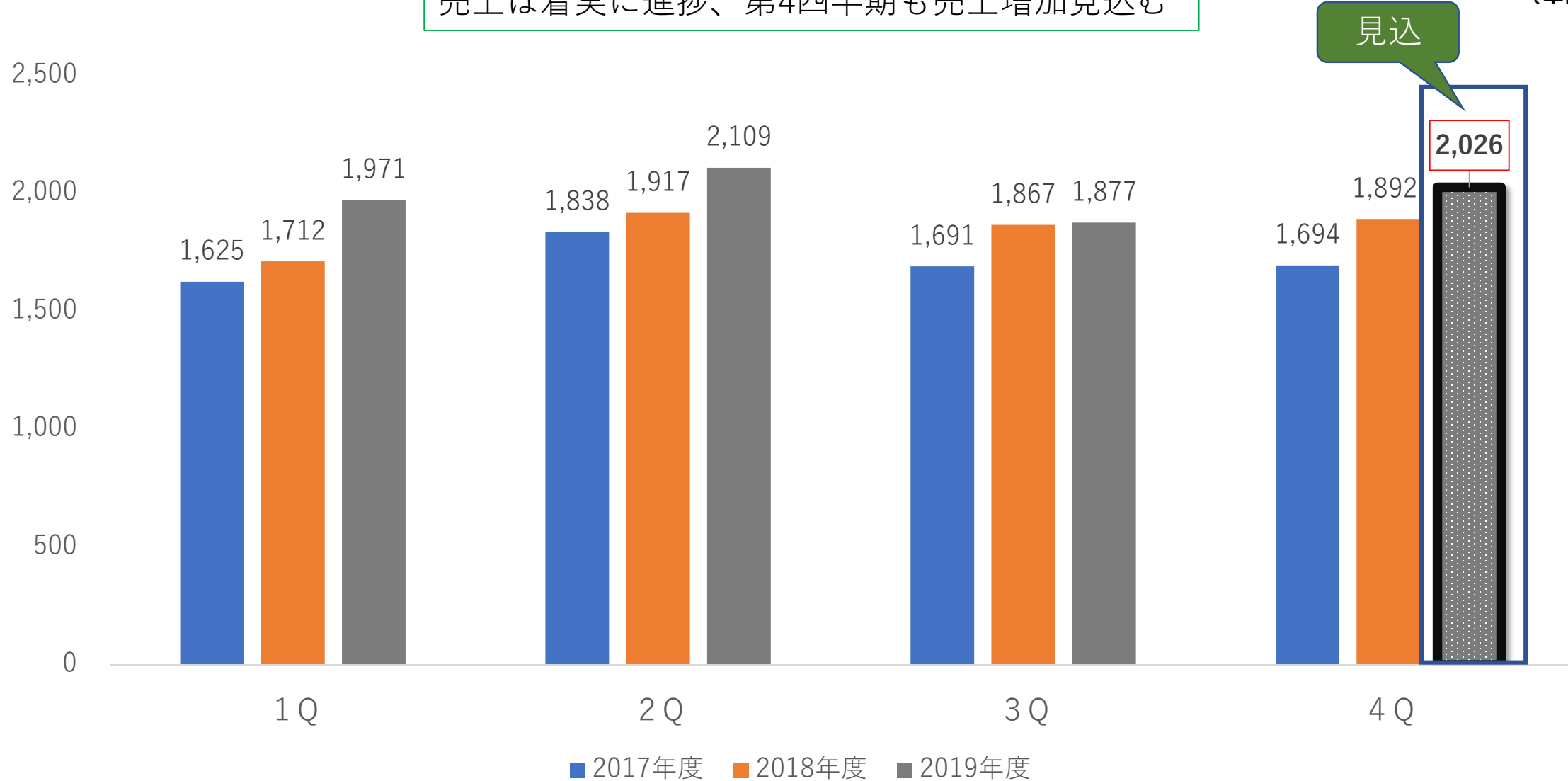
1. 2019年10月期第3四半期業績
2. 通期業績見込み
3. F A Q

1. 2019年10月期第3四半期 業績

各四半期ごとの売上進捗

売上は着実に進捗、第4四半期も売上増加見込む

(単位:百万円)

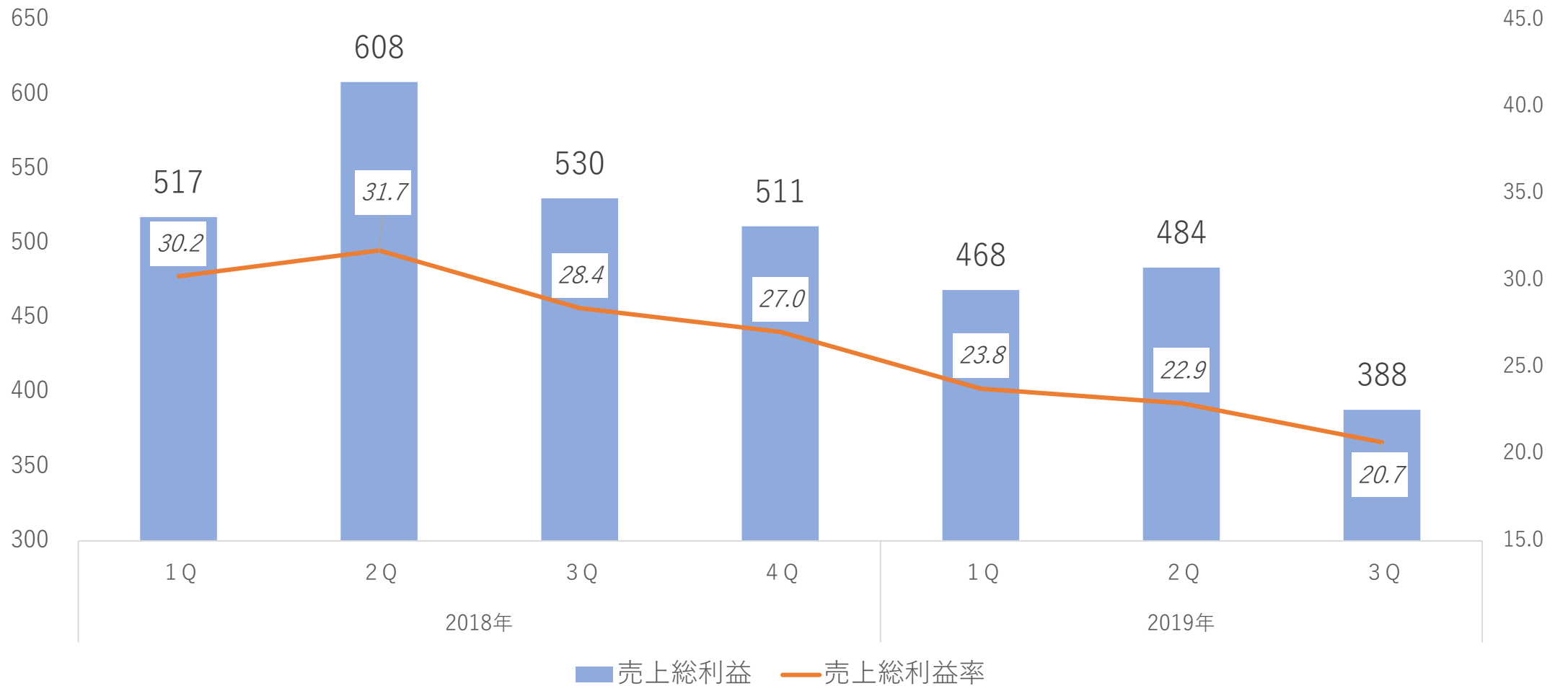


※ 2017年10月期決算、2018年10月期第1四半期及び第2四半期決算については、監査法人の監査を受けておりません。

原材料の高騰もあり売上総利益率は減少

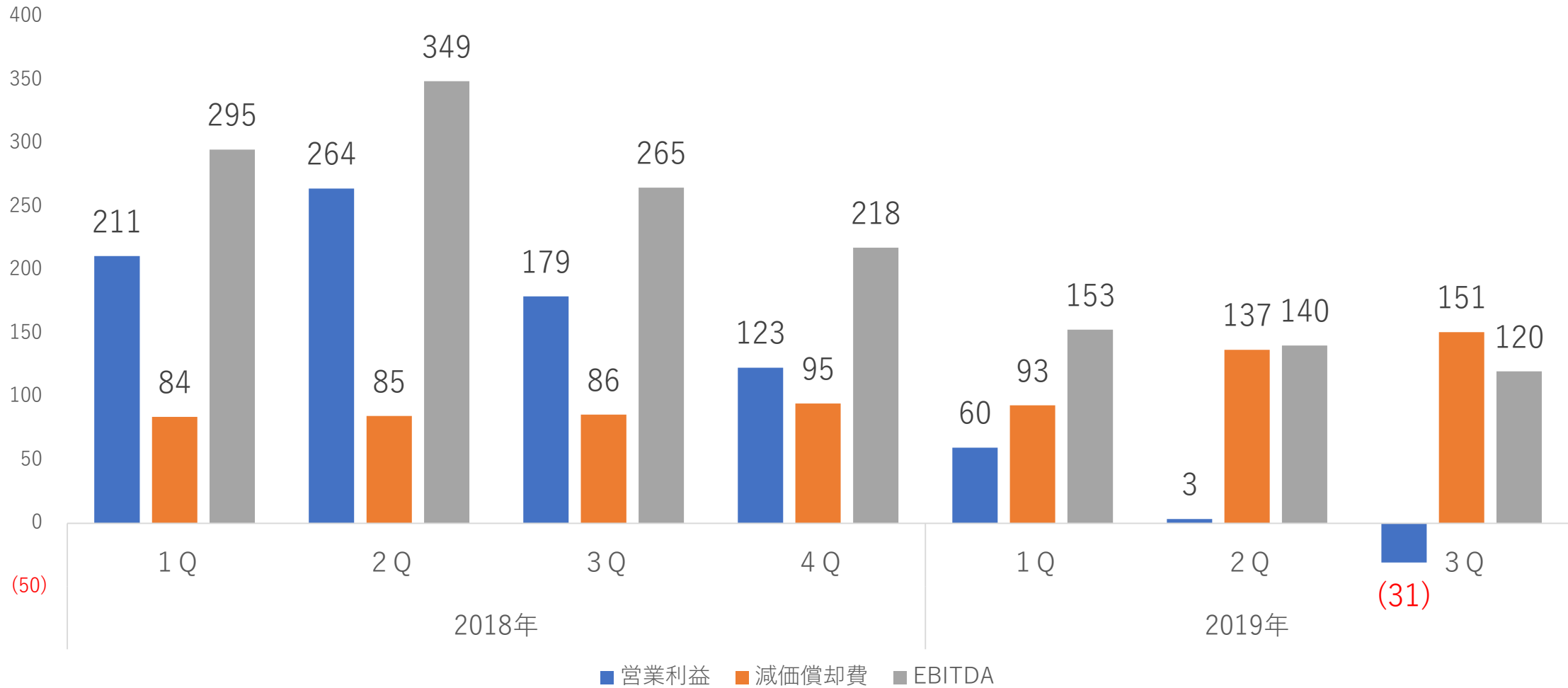
(単位:百万円)

(単位:%)



※ 2018年10月期第1四半期及び第2四半期決算については、監査法人の監査を受けておりません。

今期は九州工場の移設、印刷機の導入などの設備投資を行ったため、減価償却費が大幅増加 (単位:百万円)



※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※ 2018年10月期第1四半期及び第2四半期決算については、監査法人の監査を受けておりません。

売上高は前年同期比+8.4%も、印刷用紙の値上がりがあり売上原価の増加が大きく、売上総利益は前年割れ

(単位:百万円)

	2019年10月期第3四半期 累計			主な増減要因
	実績	前年実績	増減率	
売上高	5,957	5,495	+8.4	パートナー企業印刷売上+271百万円 パートナー以外+145百万円
売上原価	4,617	3,839	+19.7	売上増加及び印刷用紙の高騰による材料費の増加により増
売上総利益	1,340	1,655	△19.1	
販売費及び一般管理費	1,307	1,000	+31.0	発送運賃+164百万円、広告宣伝費+139百万円
営業利益	32	655	△95.1	
経常利益	38	658	△94.2	
当期純利益	25	429	△94.2	

売上高は前年同期比微増、印刷用紙価格上昇し、売上総利益は前年割れ

(単位:百万円)

	2019年10月期第3四半期			主な増減要因
	実績	前年実績	増減率	
売上高	1,877	1,866	+0.5	パートナー以外売上+23百万円、パートナー売上+2百万円
売上原価	1,488	1,336	+11.4	印刷用紙の高騰による増加 印刷機械導入による減価償却費増加
売上総利益	388	530	△26.8	
販売費及び一般管理費	419	350	+19.4	
営業利益	△31	179	—	
経常利益	△28	180	—	
当期純利益	△10	134	—	

2019年10月期 第3四半期 貸借対照表

(単位:百万円)

	2018.10月期末	2019.10月期 第3四半期末		2018.10月期末	2019.10月期 第3四半期末
流動資産	3,014	2,434	流動負債	1,628	1,644
現金及び預金	2,002	834	買掛金	411	399
売掛金及び受取手形	614	624	一年内長期借入金	524	838
固定資産	3,091	4,460	固定負債	1,212	1,960
有形固定資産	2,844	4,210	長期借入金	899	1,620
無形固定資産	19	13	純資産	3,264	3,289
投資その他の資産	227	235	利益剰余金	1,652	1,677
資産合計	6,106	6,894	負債・純資産合計	6,106	6,894

2. 通期業績予想

(単位:百万円)

2019年8月14日に通期業績予想を修正開示。現時点では変更はございません。

	2019年10月期 通期予想	増減率
売上高	7,983	+8.1%
営業利益	△144	—
経常利益	△114	—
当期利益	△74	—
1株当たり 当期純利益	△13.65	—

3. FAQ

<p>Q 1. 印刷用紙の不足について、今期の業績に与える影響と今後の業績への影響を教えてください。</p>	<p>A 1. 印刷用紙の不足は大きく分けて、 ①印刷用紙が入手困難となった時期に売上機会の損失があったこと ②印刷用紙単価の値上による売上原価の上昇の2つがあります。 ①売上機会の損失は、おおむね2019年3月～6月の間において合計約2.5億円程度です。当社は、従前より製品に係る印刷用紙として国産紙を100%使用していましたが、当該国産紙の入手が困難になったことから、同年6月頃以降輸入紙の仕入を開始し、同年7月時点においては、製品に係る印刷用紙の約30%を輸入紙が占めるようになりました。 このような、当社の印刷用紙に占める輸入紙の割合向上施策により、今後、国産紙の需要に対してその供給に余裕がなくなった場合にも、売上の制限を行うことを相当程度回避できると考えております。 ②印刷用紙の単価は、2019年7月末日時点において、昨年度末との対比で20%程度上昇しております。 この上昇への対策として、当社では同年3月頃より製品価格への転嫁を図るべく値上を実施しております。</p>
<p>Q 2. 今期は大きな設備投資を行ってきましたが、その業績に与える影響を教えてください。</p>	<p>A 2. 製造原価の中の減価償却費の四半期毎の推移は下記の通りです。 1 Q : 87百万円 2 Q : 131百万円 3 Q : 144百万円 第4四半期は、約180百万円程度計上を見込んでおります。</p>

本資料は、当社の企業情報等の提供のために作成されたものであり、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

当社は、本資料に含まれる情報または意見の公平性、正確性、完全性または正当性について、明示的または黙示的に表明または保証をするものではありませんので、これらに依拠することのないようお願いします。本資料の使用または内容等に関して生じたいかなる損害についても当社は一切の責任を負いません。また、本資料の内容は事前の通知なく大幅に変更されることがあります。

本資料は、本資料の作成時点における業界、市場動向または経済情勢等に基づき作成されたものであり、その後発生する事象に基づき影響を受ける可能性があります。当社は、それらの情報を最新のものに更新するという義務を有していません。

本資料には、当社の現在の見通し、予想、目標、計画などを含む将来に関する見通しが含まれています。このような将来に関する見通しは、経営陣による将来の業績の保証を表すものではありません。これらの見通しは、将来の予想を議論し、戦略を特定し、経営成績または当社の財務状態の予測を含み、または当社の事業および業界、将来の事業戦略ならびに将来において当社が営業を行う環境に関する当社の現在における予想、想定、見積もりおよび予測に基づくその他の将来に関する情報を記載するものです。既知および未知のリスク、不確実性およびその他の要因により、当社の実際の業績は、将来に関する見通しに記載されまたは示唆されるものとは大幅に異なる可能性があります。当社は、これらの将来に関する見通しに記載される予想が正確なものであることを保証することはできません。実際の業績は予想とは大幅に異なる可能性があります。